

街区レベル位置参照情報製品仕様書

第 1.2 版

平成 31 年 3 月

国土交通省 国土政策局

目次

1 概要	1
1.1 空間データ製品仕様書の作成情報.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 適用範囲.....	1
1.4 引用規格.....	1
1.5 用語及び定義.....	2
1.6 データ製品識別.....	3
2 応用スキーマ	4
2.1 応用スキーマUMLクラス図.....	4
2.1.1 街区レベル位置参照情報 応用スキーマ.....	4
2.2 応用スキーマ文書.....	5
2.2.1 街区レベル位置参照情報 地物.....	5
3 参照系	6
3.1 座標による空間参照系.....	6
3.2 時間参照系.....	6
4 データ品質	7
4.1 品質要求及び評価手順.....	7
5 符号化規則	12
5.1 街区レベル位置参照情報 XMLスキーマ文書.....	12
5.2 街区レベル位置参照情報 XMLインスタンスサンプル.....	14
5.3 コードリスト.....	15

1 概要

1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：街区レベル位置参照情報製品仕様書 第 1.2 版
- 日付：2019 年 3 月 15 日
- 作成者：国土交通省 国土政策局 国土情報課
- 言語：日本語
- 分野：住所代表点
- 文書書式：PDF

1.2 目的

近年、住所や郵便番号など座標以外の情報を用いて地図を表示したい、最寄りの施設を探したい等のニーズが高まっている。既にカーナビゲーションなどの分野ではこのようなサービスが提供されている。これらのサービスを提供するには、住所や郵便番号などの情報を座標と対応付けた情報（位置参照情報）が必要となる。

本製品仕様書に基づく街区レベル位置参照情報は、全国の都市計画区域相当範囲を対象に、街区単位（「〇〇町△丁目□番」）、あるいは街区相当範囲(町又は字の区域を道路、鉄道若しくは軌道の線路等の恒久的な施設又は河川、水路等によって区画した地域)の地番（「大字〇〇 △△△番地」）の位置座標（代表点の緯度・経度、平面直角座標）を整備したデータである。

本製品仕様書では、住所に対応する位置参照情報として、街区レベルでの位置参照を行うために必要となるデータについて定義する。

1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。また本製品仕様書では、日本における住所体系のうち、データに格納される以下の要素について位置参照情報として利用するために必要となる定義を行う。なお、街区符号・地番レベル未満の詳細な住所（号・枝地番）についてはこの製品仕様書の範囲ではない。

- 空間範囲：日本全国（但し街区レベル位置参照情報の整備範囲は都市計画区域内のみ）
- 時間範囲：本製品仕様書に基づき作成されるデータの作成年度まで
- データに格納する要素：
都道府県、郡、市、特別区、区、町、村、大字・町丁目、通称、街区符号、地番

1.4 引用規格

本製品仕様書は、次に掲げる規格・仕様から引用する。

JIS X 0401	都道府県コード
JIS X 0402	市区町村コード
JIS X 7107	地理情報 — 空間スキーマ
JIS X 7108	地理情報 — 時間スキーマ
JIS X 7109	地理情報 — 応用スキーマのための規則
JIS X 7110	地理情報 — 地物カタログ化法
JIS X 7111	地理情報 — 座標による空間参照
JIS X 7112	地理情報 — 地理識別子による空間参照
JIS X 7113	地理情報 — 品質原理
JIS X 7115	地理情報 — メタデータ
JMP ver.2.0	日本版メタデータプロファイル（JMP） 第2.0版
JPGIS 2014	地理情報標準プロファイル（JPGIS） 第2014版

1.5 用語及び定義

空間参照(spatial reference)

実世界における位置の記述 (JIS X 7112)。

空間参照系(spatial reference system)

実世界における位置を識別するための体系 (JIS X 7112)。
地理識別子または座標を実世界と結びつけるための基準となる。

座標参照系 (coordinate reference system)

原子 (datum) によって実世界に関連付けた座標系 (JIS X 7111)。
例：日本測地系2000に基づく経緯度座標参照系

座標系 (coordinate system)

点にどのように座標を割り当てるかを規定するための数学的規則の集合 (JIS X 7111)。
例：日本測地系2000に基づく経緯度座標参照系

所 (Place)

様々な要素をもつ事物の集まりの中で、注目すべき要素を指し示す言葉。
ここでは空間的な利用を想定する。

場所 (Location)

識別可能な地理的な所 (JIS X 7112)。
座標や地名、住所など地理識別子によって識別される。

位置 (Position)

物のある所。場所。(大辞林 第2版)
地物が占有する幾何または点。
何かが空間上に置かれているときに、置かれている場所を示すために使われる。
(参考：「ISO 19133 Geographic information - Location based services - Tracking and navigation」 “position :: data type that describes a point or geometry potentially occupied by an object or person”)

都道府県

日本における行政区分の一つで、地方自治法に定める普通地方公共団体である都道府県。
例：東京都，大阪府

特別区

地方自治法第281条第1項に規定する「都の区」。
例：千代田区，港区

市

地方自治法第8条に示される市。日本における基礎自治体の単位。
例：横浜市，大阪市

区

政令指定都市（地方自治法第252条の19第1項に規定する指定都市）に設置される区（行政区）。
例：（横浜市）青葉区，（大阪市）中央区

郡

慣例上の地方行政区画の一種。住所表記や、広域連合体（広域行政圏）の範囲、都道府県議会選挙区の区割などに用いられる。
例：（東京都）西多摩郡，（大阪府）南河内郡

町

地方自治法第8条に示される町。日本における基礎自治体の単位。

例：（東京都西多摩郡）奥多摩町，（大阪府南河内郡）太子町

村

地方自治法第8条に示される村。日本における基礎自治体の単位。

例：（東京都西多摩郡）檜原村，（大阪府南河内郡）千早赤阪村

大字・町丁目

住所表記のうち、自治体名称（都道府県，特別区，市，区，町，村）以下の部分で、地番及び街区符合及び住居番号を除いたもの。

町名称（及び丁目番号）または字名称（大字，字，小字）をさす。

例：（東京都文京区）小石川五丁目，（東京都千代田区）六番町

通称

住所表記のうち、自治体名称（都道府県，特別区，市，区，郡，町，村）以下の部分で、公称（法令に基づき付与された名称）が存在しない地域や、公称とは異なる範囲を示す地域に慣例上使用されている名称。字名称（大字）相当をさす。公称と同様の範囲を示す別名称（地名のゆらぎ等）である場合を除く。

例：（長野県上伊那郡南箕輪村）北原

街区符号

住所表記のうち、「住居表示に関する法律」に基づき住居表示が実施された地域における自治体名称(都道府県，特別区，市，区，町，村)に続く町丁目以下の部分で、住居番号を除いたもので、街区単位（町又は字の区域を道路、鉄道若しくは軌道の線路等の恒久的な施設又は河川、水路等によって区画した地域）に設定された番号（符号）。

例：（東京都府中市晴美町2丁目）24(番)

地番

住所表記のうち、住居表示による住所でなく自治体名称(都道府県，特別区，市，区，町，村)に続く大字、町丁目以下の部分で、枝番を除く地番。

例：（東京都千代田区六番町）2(番地)

1.6 データ製品識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

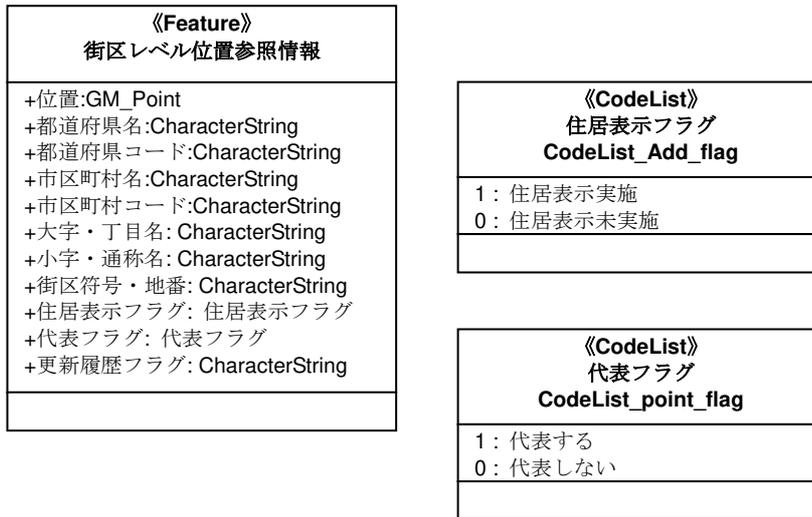
- 空間データ製品の名称：街区レベル位置参照情報データ
- 日付：2019年3月15日
- 問い合わせ先：国土情報提供サイト運営事務局
URL: <http://nlftp.mlit.go.jp/inquiry.html>
- 地理記述：全国

2 応用スキーマ

本章では、街区レベル製品仕様書が持つべきデータの構造及びその定義を示す。

2.1 応用スキーマUMLクラス図

2.1.1 街区レベル位置参照情報 応用スキーマ



2.2 応用スキーマ文書

2.2.1 街区レベル位置参照情報 地物

定義：

街区レベル位置参照情報を示す地物（抽象）

上位クラス：なし

属性：

- **位置 (Point) : GM_Point**
街区レベル位置参照情報の位置。
- **都道府県名 (nameOfPrefecture) : CharacterString**
都道府県の名称。
- **都道府県コード (codeOfPrefecture) : CharacterString**
都道府県のコード。（JIS X 0401（都道府県コード）に準拠）
- **市区町村名 (NameCity) : CharacterString**
市区町村の名称。
- **市区町村コード (codeOfCity) : CharacterString**
市区町村のコード。（JIS X 0402（市区町村コード）に準拠）
- **大字・丁目名 (aza) : CharacterString**
大字・丁目の名称。
- **小字・通称名 (koaza) : CharacterString**
小字・通称の名称。
- **街区符号・地番 (fugou) : CharacterString**
住居表示実施地域の街区符号、あるいは住居表示未実施地域における地番。
- **住居表示フラグ (add_flag) : CodeList_add_flag**
住居表示実施の区分。コードによって記述する。
-add_flag
1：住居表示実施
0：住居表示未実施
- **代表フラグ (point_flag) : CodeList_point_flag**
代表点の区分。コードによって記述する。1つの街区符号または地番が複数の代表点に対応付けられる場合などに、そのうちの一つに便宜的に代表フラグを立てる。1つの街区符号または地番に対し1つのデータの場合は、当該データに対して代表フラグを立てる。
-point_flag
1：代表する
0：代表しない
- **更新履歴フラグ (history) : CharacterString**
更新履歴の記述。
更新の履歴を文字列によって記述する。ただし、記述する文字列は以下のルールに従う。
更新前基準日における更新履歴の履歴番号と更新基準日における更新履歴の履歴番号をハイフンでつないだ文字列で記述する
-historyに記述する更新履歴の履歴番号
1：新規作成
2：名称変更
3：削除
0：変更なし
(記述例)
平成29年度変更なし、平成30年度削除という履歴の場合は、“0-3”と記述する

3 参照系

本製品仕様書に基づき作成する街区レベル位置参照情報は以下の参照系に基づくものとする。

3.1 座標による空間参照系

本製品仕様書に基づき作成する街区レベル位置参照情報は、以下の座標参照系の識別子を使用するものとする。

なお、以下に示す座標参照系以外を使用する場合には、発注者との協議により決定する。

参照識別子 (RS_CRS)	別名	注釈
JGD2000 / (B,L)	日本測地系 2000 / (緯度,経度)	日本測地系 2000 に基づく経緯度で表される座標参照系。 緯度、経度の「座標系の軸の単位識別子」は“decimal degree (実数度)”とする。

3.2 時間参照系

本製品仕様書に基づき作成する街区レベル位置参照情報は、以下の時間参照系の識別子を使用するものとする。

参照識別子 (RS_CRS)	別名	注釈
GC / JST	グレゴリオ暦 / 日本標準時	ユリウス暦よりも 1 年の長さが太陽年により近くなるよう定義するため、1582 年に最初に導入された、汎用的な暦。(JIS X 7108) 東経百三十五度ノ子午線ノ時(明治 19 年 7 月 13 日勅令第 51 号)。

4 データ品質

本製品仕様書の取り扱うデータの品質要求及び評価手順を以下のとおり定める。

データ品質評価の具体的な方法は、本書に記載した規定に準拠して作業機関が品質評価手順を作成し、監督職員等との協議により、その評価方法によってデータ集合が品質要件を満たすことを評価できるという確認ができたものでなければならない。

評価方法のうち、抜取検査の点検量については、「国土交通省測量作業規定」第12条3項（点検測量）に基づくものとする。街区レベル位置参照情報は元となるデータが概ね2,500レベルのデータ又は紙図面である。同要領では、1/2500地形図作成（含む修正）におけるブロック毎単位の点検量は、監督員が指示した点検の量と定められている。よって、本製品仕様書においても点検量は監督員が定めることとする。ただし、本製品仕様書の点検量の目安としては、全体数量の5%とする。

4.1 品質要求及び評価手順

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）、街区相当範囲形状データ
データ品質評価尺度	過剰なデータをレコード（街区相当範囲形状データの場合はポリゴン）単位に数える。住居表示実施地区において、街区相当範囲と街区レベル位置参照情報が1対1に対応していない場合に過剰とみなす。数量が1対1で対応していても、住所情報が一致しない場合は過剰とみなす。
データ品質評価手法	2データの比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	2データの属性項目「住居表示フラグ」によ住居表示実施地区のデータを抽出し、GIS上でポリゴン・ポイントの内外判定による1対1対応検査を行う。論理検査プログラムによる自動検査でもよい。
適合品質水準	過剰データの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）
データ品質評価尺度	過剰なデータをレコード単位に数える。「街区相当範囲形状データの更新」で使用した資料と比較して、資料に記載されていないデータがあった場合は過剰とみなす。資料の情報を真とする。
データ品質評価手法	資料との比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	資料に記載されている範囲のデータをGIS上に表示させ、資料とGIS上表示の目視による突き合わせ検査を行う。資料が電子データ化されていれば、データ比較を行う論理検査プログラムによる自動検査でもよい。
適合品質水準	過剰データの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）
データ品質評価尺度	過剰なデータをレコード単位に数える。都道府県別ファイルに市区町村別ファイルにないレコードが存在した場合は過剰とみなす。
データ品質評価手法	2種類のファイルの比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	市区町村別ファイルを1ファイルに統合して、レコード単位の突き合わせ検査を行う。ファイル比較プログラムによる自動検査で行う。
適合品質水準	過剰データの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式、JPGIS形式）
データ品質評価尺度	過剰なデータをレコード単位に数える。CSV形式のデータに無いレコードが、JPGIS形式のレコードに存在する場合は過剰とみなす。CSV形式を真とする。
データ品質評価手法	2種類のファイルの比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	JPGIS形式データから位置座標と属性情報をプログラムによりCSV形式で整形出力し、2つのCSV形式データをファイル比較プログラムにより検

	査する。
適合品質水準	過剰データの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）
データ品質評価尺度	漏れデータをレコード単位に数える。更新前街区レベル位置参照情報に記載されているレコードのうち、「更新履歴フラグ」が「3」（削除）でないレコードに対応するデータが、更新後の街区レベル位置参照情報に無い場合は漏れとみなす。更新前街区レベル位置参照情報を真とする
データ品質評価手法	2つのファイル（更新前・更新後）の比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	更新前データの「更新履歴フラグ」が「3」でないレコードを抽出し、座標値と大字・町丁目名、街区符号・地番をキーとして更新後データとの突き合わせ検査を実施する。基本は自動検査とし、アンマッチ分については目視検査とする。
適合品質水準	漏れデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）
データ品質評価尺度	漏れデータをレコード単位に数える。データを「街区相当範囲形状データの更新」で使用した資料と比較し、資料に記載されている街区符号・地番のデータが無い場合に漏れとみなす。資料の情報を真とする。
データ品質評価手法	資料から街区相当範囲形状データを更新した箇所について全数検査を実施する。
データ品質評価手順	資料に記載されている範囲のデータをGIS上に表示させ、資料とGIS上表示の目視による突き合わせ検査を行う。資料が電子データ化されていれば、データ比較を行う論理検査プログラムによる自動検査でもよい。
適合品質水準	漏れデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）
データ品質評価尺度	漏れデータをレコード単位に数える。住居表示実施区域において、該当データの住所情報がNullの場合、または住居表示実施区域のデータとして不適切な住所情報が格納されている場合は漏れとみなす。
データ品質評価手法	該当データを抽出した後、論理検査プログラムによる全数検査を実施する。
データ品質評価手順	街区相当範囲形状データとの内外判定により、住居表示実施区域のデータを抽出し、このデータに対して論理検査プログラムによる自動検査を行う。
適合品質水準	漏れデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）
データ品質評価尺度	漏れデータをレコード単位に数える。市区町村別ファイルに存在するレコードが、都道府県別ファイルに無い場合は漏れとみなす。
データ品質評価手法	2種類のファイルの比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	市区町村別ファイルを1ファイルに統合して、レコード単位の突き合わせ検査を行う。ファイル比較プログラムによる自動検査で行う。
適合品質水準	漏れデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式、JPGIS形式）
データ品質評価尺度	漏れデータをレコード単位に数える。CSV形式のデータに存在するレコードが、JPGIS形式のレコードに無い場合は漏れとする。CSV形式を真とする。
データ品質評価手法	2種類のファイルの比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	JPGIS形式データから位置座標と属性情報をプログラムによりCSV形式で整形出力し、2つのCSV形式データをファイル比較プログラムにより検査する。
適合品質水準	漏れデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報 (CSV 形式、JPGIS 形式)
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから誤りデータをレコード単位に数える。フォーマットの仕様と異なる場合は誤りとみなす。
データ品質評価手法	論理検査プログラムによる全数検査を実施する。
データ品質評価手順	CSV 形式ファイルに対しては、ファイル内の各カラムに格納されるデータが仕様 (空白を許容する場合も含む) のとおりになっていることを検査する論理検査プログラムを作成して検査を行う。JPGIS 形式ファイルについては、作成した論理検査プログラムまたは一般に利用されている XML パーサを使用して、整形形式となっていない (XML 文書の構文として正しくない、well-formed でない) 箇所を抽出・検査する。
適合品質水準	誤りデータの個数：0 個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報 (JPGIS 形式)
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから誤りデータをレコード単位に数える。符号化仕様の定義と一致しない、または矛盾する場合は誤りとみなす。
データ品質評価手法	論理検査プログラムによる全数検査を実施する。
データ品質評価手順	XML スキーマも参照して検査する検査プログラム (XML パリデータなど) を使用して妥当 (valid) でない箇所を抽出・検査する。
適合品質水準	誤りデータの個数：0 個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報 (CSV 形式)、街区相当範囲形状データ
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから誤りデータをレコード (街区相当範囲形状データの場合はポリゴン) 単位に数える。データの座標値が作成範囲を超える座標値の場合、または対応する街区相当範囲形状 (ポリゴン) の外側の座標値の場合は誤りとみなす。
データ品質評価手法	論理検査プログラムによる全数検査を実施する。
データ品質評価手順	検査対象の位置参照情報の座標値と、街区相当範囲形状データの座標値、または市区町村界データ (国土数値情報 (行政区域) など) の座標値を読み込み、内外判定による座標値の妥当性を検査するプログラムを作成して検査を行う。
適合品質水準	誤りデータの個数：0 個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	街区相当範囲形状データ
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから誤りデータをポリゴン単位に数える。ポリゴンデータの構成点の座標値を取得して、位相的に不適切なポリゴンデータ (面が閉じていない、面積が 0 または微小、ねじれ・スパイク・キックバックがある、隣接するポリゴン間に重複・隙間がある等) があった場合は誤りとみなす。
データ品質評価手法	論理検査プログラムによる全数検査を実施する。
データ品質評価手順	GIS の検査機能、またはポリゴンデータの位相構造を検査するために作成したプログラムを使用して検査を行う。
適合品質水準	誤りデータの個数：0 個

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度または外部正確度
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報 (CSV 形式)
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから誤りデータをレコード単位に数える。「街区相当範囲形状データの更新」で使用した資料と比較して、街区レベル位置参照情報の位置が資料の示す位置と異なる (位置は同じでも属性情報が異なる場合を含む) 場合は誤りとみなす。
データ品質評価手法	目視による抜取検査を実施する。
データ品質評価手順	GIS 上に表示させた街区レベル位置参照情報と資料を突き合わせて (資料のうち幾何補正した図面資料は GIS 上に重ねて表示させて)、更新箇所の

	全件数の5%の件数を目安に目視検査を行う。
適合品質水準	誤りデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	位置正確度・相対正確度または内部正確度
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから以下のような場合を誤りデータとみなし、これをレコード単位に数える。 ①データの座標値が水部に位置する場合。 ②住居表示実施地域について、同じ町丁目の異なる街区のデータの中に異常に近接している（2点間の距離が5m未満など）ものがあつた場合。 ③属性項目「X座標」「Y座標」と示す位置と、「緯度」「経度」の示す位置が異なる場合。
データ品質評価手法	論理検査プログラムによる全数検査を実施する。
データ品質評価手順	①水部の検査については、「数値地図（国土基本情報）」から水部のエリアデータ（ポリゴン）が取得できた場合は、GISの「交差判定」機能を使用して検査を行う。エリアデータが取得できない場合は、GIS上に「数値地図（国土基本情報）」を重ねて表示させ、目視により水部に点が位置していないか検査する。②2点近接については、ファイル内の任意の2点間の距離を計算する検査プログラムを作成して検査を行う。③座標値の属性項目の位置については、「X座標」「Y座標」を緯度・経度に変換して、2つの座標値が一致することを確認する。
適合品質水準	誤りデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	主題正確度・分類の正しさ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）、街区相当範囲形状データ
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから以下のような場合を誤りデータとみなし、これをレコード（街区相当範囲形状データの場合はポリゴン）単位に数える。 ①「街区相当範囲形状データの更新」で使用した資料と比較して、「住居表示フラグ」が正しく付与されていない場合。 ②同一住所情報を持つレコード内の代表点（代表フラグ）が付いているレコードが1つではない場合（代表点が複数存在する場合及び代表点が存在しない場合）。ただし、削除フラグのあるデータは対象外とする。 ③更新した箇所の「更新履歴フラグ」が、行った更新作業の内容と対応していない場合。
データ品質評価手法	論理検査プログラムによる全数検査、または目視による抜取検査を実施する。
データ品質評価手順	②については、論理検査プログラムにより「代表フラグ」が“1”の唯一性を検査する。①、③については、資料により更新した箇所の情報（町丁目名、街区番号等）をリスト化（電子データ化）しておき、これと検査対象データの突き合わせを行う。リスト化が困難な場合は、更新箇所の全件数の5%の件数を目安に目視によりデータと資料の突き合わせ検査を行う。
適合品質水準	誤りデータの個数：0個

データ品質要素・副要素	主題正確度・定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）、街区相当範囲形状データ
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから誤りデータをレコード（街区相当範囲形状データの場合はポリゴン）単位に数える。街区レベル位置参照情報のレコードと、それに対応する街区相当範囲形状データのポリゴンの属性値（レコード数、住居表示フラグ、代表点フラグ）が異なる場合は誤りとみなす。
データ品質評価手法	2データの比較による全数検査を実施する。
データ品質評価手順	2データの属性項目を取得し、同一箇所について比較する論理検査プログラムによる自動検査を行う。
適合品質水準	過剰データの個数：0個

データ品質要素・副要素	主題正確度・非定量的属性の正しさ
データ品質適用範囲	街区レベル位置参照情報（CSV形式）、街区相当範囲形状データ
データ品質評価尺度	市区町村別ファイルから誤りデータをレコード（街区相当範囲形状データ

	の場合はポリゴン) 単位に数える。「街区相当範囲形状データの更新」で使用した資料と比較して、更新した箇所の住所情報が異なる場合は誤りとみなす。
データ品質評価手法	目視による抜取検査を実施する。
データ品質評価手順	更新した箇所の街区レベル位置参照情報、街区相当範囲形状データの属性情報と資料を突き合わせて、更新箇所の全件数の 5%の件数を目安に住所情報を比較する目視検査を行う。
適合品質水準	誤りデータの個数：0 個

5 符号化規則

本製品仕様書では、JPGISにより定義された空間参照スキーマを用い、応用スキーマのXMLスキーマ文書を以下のとおり定義する。

5.1 街区レベル位置参照情報 XMLスキーマ文書

```
<?xml version="1.0" encoding="shift_jis"?>
<xs:schema xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink" xmlns:jps="http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas"
xmlns:apf="http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/街区レベル_XML"
targetNamespace="http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/街区レベル_XML"
elementFormDefault="unqualified" attributeFormDefault="unqualified" version="1.1">
  <xs:import namespace="http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas"
schemaLocation="jpsRoot.xsd" />
  <!-- ===== GI ===== -->
  <xs:element name="GI">
    <xs:complexType>
      <xs:sequence>
        <xs:element name="exchangeMetadata" type="jps:ExchangeMetadata" minOccurs="0" />
        <xs:element name="dataset" type="apf:Dataset" minOccurs="0" />
      </xs:sequence>
      <xs:attribute name="version" type="jps:CharacterString" use="required" fixed="1.0" />
      <xs:attribute name="timeStamp" type="jps:DateTime" use="required" />
    </xs:complexType>
  </xs:element>
  <xs:complexType name="Dataset">
    <xs:sequence maxOccurs="unbounded">
      <xs:element name="crs" type="jps:ref_RS_CRS" minOccurs="0" maxOccurs="2" />
      <xs:element ref="apf:Object" />
    </xs:sequence>
    <xs:attributeGroup ref="jps:IM_Object" />
  </xs:complexType>
  <xs:element name="Object">
    <xs:complexType>
      <xs:sequence maxOccurs="unbounded">
        <xs:any namespace="http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/街区レベル_XML"
http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas" />
      </xs:sequence>
    </xs:complexType>
  </xs:element>
  <!-- ===== 街区レベル位置参照情報 ===== -->
  <xs:element name="GaikulchisanshoPkg.Gaikulchisansho"
type="apf:GaikulchisanshoPkg.Gaikulchisansho" />
  <xs:complexType name="GaikulchisanshoPkg.Gaikulchisansho">
    <xs:complexContent>
      <xs:extension base="jps:IM_Object">
        <xs:sequence>
          <xs:element name="Point" type="jps:GM_Point" />
          <xs:element name="nameOfPrefecture" type="jps:CharacterString" />
          <xs:element name="codeOfPrefecture" type="jps:CharacterString" />
          <xs:element name="nameOfCity" type="jps:CharacterString" />
          <xs:element name="codeOfCity" type="jps:CharacterString" />
          <xs:element name="aza" type="jps:CharacterString" />
          <xs:element name="koaza" type="jps:CharacterString" />
          <xs:element name="fugou" type="jps:CharacterString" />
          <xs:element name="add_flag" type="apf:GaikulchisanshoPkg.CodeList_add_flag" />
          <xs:element name="point_flag" type="apf:GaikulchisanshoPkg.CodeList_point_flag" />
          <xs:element name="history" type="jps:CharacterString" />
        </xs:sequence>
      </xs:extension>
    </xs:complexContent>
  </xs:complexType>
  <!-- ===== 住居表示フラグ ===== -->
```

```
<xs:simpleType name="GaikulchisanshoPkg.CodeList_add_flag">
  <xs:restriction base="xs:string" />
</xs:simpleType>
<!-- ===== 代表フラグ ===== -->
<xs:simpleType name="GaikulchisanshoPkg.CodeList_point_flag">
  <xs:restriction base="xs:string" />
</xs:simpleType>
</xs:schema>
```

5.2 街区レベル位置参照情報 XMLインスタンスサンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="shift_jis"?>
<apf:GI xmlns:apf=http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/街区レベル_XML
  xmlns:jps="http://www.gsi.go.jp/GIS/jpgis/standardSchemas" xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://www.gsi.go.jp/jpgis/
  街区レベル_XML 街区レベル_XML.xsd" version="1.0" timeStamp="2009-01-29T00:00:00">
  <exchangeMetadata>
    <datasetCitation>
      <jps:CI_Citation.title>街区レベル位置参照情報</jps:CI_Citation.title>
      <jps:CI_Citation.date>
        <jps:CI_Date>
          <CI_Date.date>2009-01-29</CI_Date.date>
          <CI_Date.dateType>001</CI_Date.dateType>
        </jps:CI_Date>
      </jps:CI_Citation.date>
    </datasetCitation>
    <encodingRule>
      <encodingRuleCitation>
        <jps:CI_Citation.title>地理情報標準プロファイル</jps:CI_Citation.title>
        <jps:CI_Citation.date>
          <jps:CI_Date>
            <CI_Date.date>2009-01-29</CI_Date.date>
            <CI_Date.dateType>001</CI_Date.dateType>
          </jps:CI_Date>
        </jps:CI_Citation.date>
      </encodingRuleCitation>
      <toolName>PSEditor</toolName>
      <toolVersion>1.0</toolVersion>
    </encodingRule>
    <codeLists>
      <name>住居表示フラグ</name>
      <source>codeList 辞書.xml</source>
      <extracted>2009-01-29T00:00:00</extracted>
      <format>both</format>
    </codeLists>
    <codeLists>
      <name>代表フラグ</name>
      <source>codeList 辞書.xml</source>
      <extracted>2009-01-29T00:00:00</extracted>
      <format>both</format>
    </codeLists>
  </exchangeMetadata>
  <dataset>
    <crs idref="crs01" />
    <crs idref="crs02" />
    <apf:Object>
      <jps:RS_CRS id="crs01">
        <jps:RS_ReferenceSystem.name>
          <jps:RS_Identifier>
            <jps:RS_Identifier.code>JGD2000 / (B, L)</jps:RS_Identifier.code>
          </jps:RS_Identifier>
        </jps:RS_ReferenceSystem.name>
      </jps:RS_CRS>
      <jps:RS_CRS id="crs02">
        <jps:RS_ReferenceSystem.name>
          <jps:RS_Identifier>
            <jps:RS_Identifier.code>GC / JST</jps:RS_Identifier.code>
          </jps:RS_Identifier>
        </jps:RS_ReferenceSystem.name>
      </jps:RS_CRS>
      <!--==== 街区レベル位置参照情報 ====-->
      <apf:GaikulchisanshoPkg.Gaikulchisansho id="ユニークな番号を付与 0">
        <!--GM_Point-->
        <Point id="ユニークな番号を付与する 1">
```

```

    <jps:GM_Point.position>
      <jps:DirectPosition>
        <DirectPosition.coordinate>34.33333333 135.8888888</DirectPosition.coordinate>
      </jps:DirectPosition>
    </jps:GM_Point.position>
  </Point>
  <nameOfPrefecture>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </nameOfPrefecture>
  <codeOfPrefecture>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </codeOfPrefecture>
  <nameOfCity>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </nameOfCity>
  <codeOfCity>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </codeOfCity>
  <aza>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </aza>
  <koaza>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </koaza>
  <fugou>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </fugou>
  <add_flag>
    <!--住居表示フラグ 型で作成 -->
  </add_flag>
  <point_flag>
    <!--代表フラグ 型で作成 -->
  </point_flag>
  <history>
    <!--jps:CharacterString 型で作成 -->
  </history>
</apf:GaikulchisanshoPkg.Gaikulchisansho>
</apf:Object>
</dataset>
</apf:GI>

```

5.3 コードリスト

```

<?xml version="1.0" encoding="shift_jis"?>
<GI version="1.0" timeStamp="2009-01-29T00:00:00"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:noNamespaceSchemaLocation="街区レベル_XML.xsd">
  <codeList name="住居表示フラグ">
    <codevalue code="住居表示実施" value="1" />
    <codevalue code="住居表示未実施" value="0" />
  </codeList>
  <codeList name="代表フラグ">
    <codevalue code="代表する" value="1" />
    <codevalue code="代表しない" value="0" />
  </codeList>
</GI>

```